

令和2年度事業計画(美術館)

自 令和2年4月1日

至 令和3年3月31日

公益目的事業2(展覧会事業)

1. 「リニューアル・オープン記念展Ⅰ」の開催

- ア. 名称 「ART in LIFE, LIFE and BEAUTY この国の美は生活の中にある」
- イ. 会期 令和2年5月13日(水)～令和2年7月5日(日)
- ウ. 概要 サントリー美術館は1961年の開館以来「生活の中の美(Art in Life)」をテーマに展示・収集活動を行ってきました。絵や彫刻だけではなく、日常使う道具や調度に美を認め、生活の中で味わい、愉しむ。これがわが国の美意識の特徴であり、その美意識のもと多くの名品が見出され育まれてきました。当館ではこれらの美術作品を企画展や収蔵品展を通じて広く紹介してきましたが、本展では、改めてこのテーマに立ち返り、生活を彩ってきた華やかな優品を厳選してご覧いただくとともにジャンルや時代の枠組みに縛られず、古美術から現代アートまでの幅広い作品をクロスさせることで、コレクションの新たな側面に光を当てます。
- エ. 展示
- ・国宝 浮線綾螺鈿蒔絵手箱 一合 鎌倉時代 13世紀
 - ・重要文化財 泰西王侯騎馬図屏風 四曲一双 桃山時代～江戸時代初期
17世紀初期
 - ・遙カノ景 〈空へ〉 深見陶冶 一基 平成8年(1996)
- オ. 備考 共催：朝日新聞社 巡回：なし

2. 「リニューアル・オープン記念展Ⅱ」の開催

- ア. 名称 「日本美術の裏の裏(仮称)」
- イ. 会期 令和2年7月22日(水)～令和2年9月22日(火・祝)
- ウ. 概要 私たちの祖先が、生活の中でどのように美を味わってきたのかと思いをめぐらすと、一見近づきがたい日本美術はぐっと親しくなります。本展ではサントリー美術館の基本理念「生活の中の美」の“愉しみ方”に焦点をあて、当館の個性ゆたかな収蔵品の中から、日本ならではの美意識に根ざした作品をご紹介します。古の人々の愉しみ方を追体験し、その美意識を再発見することで、現代を生きる私たちに新しい刺激を与えてくれることでしょうか。何をどう鑑賞したら良いのか悩める日本美術初心者の方々に向け、教科書では教えてくれない日本美術の面白さの一端をご案内します。
- エ. 展示
- ・青楓瀑布図 円山応挙 一幅 江戸時代 天明7年(1787)
 - ・かるかや 二帖 室町時代 16世紀
 - ・青緑山水画帖 池大雅 一帖 江戸時代 宝暦13年(1763)
- オ. 備考 共催：朝日新聞社 巡回：なし

3. 「リニューアル・オープン記念展Ⅲ」の開催

- ア. 名称 「美を結ぶ。美をひらく。(仮称)」
- イ. 会期 令和2年10月14日(水)～令和2年12月20日(日)
- ウ. 概要 「美を結ぶ。美をひらく。」これはサントリー美術館が六本木・東京ミッドタウンに移転開館した2007年以来掲げてきたミュージアムメッセージです。たとえば、古きものと新しきものを結ぶ。中世や近世、近代といった時代の枠組みに縛られずに美と美を結ぶ。たとえば、東と西を結ぶ。国や民族といった境界にとらわれずに文化を結ぶ。自由に大胆に結ぶことから、新しい発見がひらかれる。知的感動がひらかれる。結ぶことで人と美に新しい関係をひらいていきたいという思いを込めたものです。本展ではこのメッセージを改めて見つめなおし、結ばれ・ひらかれた美の物語とともに収蔵品の中から陶磁器、琉球美術、版画、ガラスの名品などを中心に約200件をご紹介します。
- エ. 展示
- ・花器「蜻蛉」 エミール・ガレ(フランス) 一点 1889-1900年
 - ・色絵花鳥文六角壺 一合 有田 江戸時代 17世紀
 - ・紅型裂 白地震松桜楓に小禽文 一枚 第二尚氏～明治時代 19世紀
- オ. 備考 共催：朝日新聞社 巡回：なし

収益事業

1. 物販事業

企画展や収蔵品をモチーフにしたオリジナルグッズの展開に加え、日々の生活に彩りを添える商品を季節ごとに投入して店舗の鮮度を維持し、お客様に繰り返し足を運んでいただけるショップを目指す。

2. 飲食事業

「加賀麩 不室屋」の歴史・伝統を活かした食事・甘味メニューに加え、季節感を取り入れたメニューを展開し、お客様層の拡大およびリピーターの増加を図る。また物販においても手土産・贈答にご利用いただける価格帯の詰め合わせを充実させ、飲食事業の売上の底上げを図る。

3. 貸室事業

「茶室」の貸出により収益を得るだけでなく、当館ならではの価値の訴求に寄与し、結果として日本のお茶文化の普及にも貢献していく。

以 上